

## 9 正則行列と逆行列

実数  $a$  については,  $a \neq 0$  のとき, その逆数  $a^{-1}$  が存在して,  $a \cdot a^{-1} = 1$  が成り立つ. この節では, これと同様に, 行列  $A$  について,  $A A^{-1} = E$  (単位行列) となる逆行列  $A^{-1}$  が存在するための条件やその求め方を調べる.

○  $n$  次正方行列  $A$  について

$$A B = B A = E_n$$

を満たす行列  $B$  を  $A$  の**逆行列**(inverse matrix) といい  $A^{-1}$  で表わす. すべての行列が逆行列をもつわけではない. 逆行列をもつ行列は**正則**(regular)であるという.

※ 上の定義により,  $A$  の**逆行列**  $A^{-1}$  が存在すれば,  $A A^{-1} = A^{-1} A = E_n$  が成り立つ.

※ また,  $A B = E_n$  が成り立てば,  $B A = E_n$  も成り立つことが知られており,  $A B = E_n$  ならば,  $B = A^{-1}$  としてよい.

正則行列  $A$  の逆行列はただ 1 つである.

(証明)

行列  $B, C$  が  $A$  の逆行列であると仮定すると,

$$(A B = ) B A = E_n \quad \cdots (*1)$$

$$A C = (C A) = E_n \quad \cdots (*2)$$

(\*1) 式の各辺に右から  $C$  を掛けると,

$$B A C = C$$

(\*2) 式により  $A C = E_n$  だから

$$B = C$$

基本行列は正則である.

(証明)

$$P = \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & c & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix} \quad (c \neq 0) \text{ については,}$$

$$\begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & c & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & \frac{1}{c} & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix} = E_n$$

$$\begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & \frac{1}{c} & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & c & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix} = E_n$$

が成り立ち, 逆行列

$$P^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & \frac{1}{c} & \cdots & 0 \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix}$$

が存在するから、 $\mathbf{P}$ は正則である。■

$$Q = \begin{pmatrix} 1 & 0 & \cdots & \cdots & \cdots & 0 \\ 0 & 1 & 0 & \cdots & \cdots & 0 \\ \vdots & & 1 & & & 0 \\ \vdots & & & 0 & 1 & 0 \\ \vdots & & & 1 & 0 & 0 \\ 0 & & & & & 1 & 0 \\ 0 & 0 & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & 1 \end{pmatrix} \begin{array}{l} \leftarrow i\text{行} \\ \leftarrow j\text{行} \end{array}$$

については  $\mathbf{Q}$ を左から掛けると、相手の行列の第*i*行と第*j*行が入れ替わるので、 $\mathbf{Q}\mathbf{Q}$ により、 $\mathbf{Q}$ の第*i*行と第*j*行が入れ替わり  $E_n$ となる。

つまり、 $\mathbf{Q}\mathbf{Q} = E_n$ だから、 $\mathbf{Q}^{-1} = \mathbf{Q}$ となり、逆行列が存在する ( $\mathbf{Q}$ 自身) から、 $\mathbf{Q}$ は正則である。■

$$R = \begin{pmatrix} 1 & 0 & \cdots & \cdots & \cdots & 0 \\ 0 & 1 & 0 & \cdots & c & \cdots & 0 \\ \vdots & & 1 & & & & 0 \\ \vdots & & & 1 & & & 0 \\ \vdots & & & & 1 & & 0 \\ 0 & & & & & 1 & 0 \\ 0 & 0 & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & 1 \end{pmatrix} \begin{array}{l} \leftarrow i\text{行} \\ \uparrow j\text{列} \end{array}$$

については、 $\mathbf{R}$ を左から掛けると、相手の行列の第*i*行に第*j*行の*c*倍を加えるから、たとえば、

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} = E_4$$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} = E_4$$

のように第 (*i, j*) 成分の符号を逆にすれば逆行列となる。

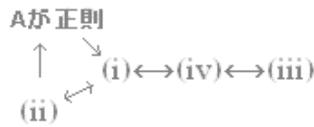
よって、 $\mathbf{R}$ は正則である。■

**定理 4** 次の(i)~(v)は、それぞれ、 $n$ 次正方行列  $\mathbf{A}$  が正則であるための必要十分条件である。

- (i) 同次形連立1次方程式  $\mathbf{A}\vec{x} = \vec{0}$  が自明解のみをもつ。
- (ii) 任意の列ベクトル  $\vec{b}$  に対して、 $\mathbf{A}\vec{x} = \vec{b}$  がただ1つの解をもつ。
- (iii)  $\mathbf{A}$  の基本形は  $E_n$  である。
- (iv)  $\text{rank}(\mathbf{A}) = n$
- (v)  $|\mathbf{A}| \neq 0$

(証明)

次の流れに沿って証明する。



(v) : 次の章で述べる

**(i)⇔(iv)の証明 :**

3.3節の定理3

「同次方程式が自明解のみをもつ」ための必要十分条件は「rank(A)=n」  
 によって示されている.

**(iv)⇔(iii)の証明 :**

rank(A) = n, すなわち n 次正方行列で異なる基本ベクトルが n 個あること (既約な階段行列で先頭の1が n 個あること) は, A の基本形が E<sub>n</sub> であるということである.

**正則→(i)の証明 :**

A が正則ならば, その逆行列 A<sup>-1</sup> が存在するから,  
 $A \vec{x} = \vec{0} \rightarrow A^{-1} A \vec{x} = A^{-1} \vec{0} \rightarrow \vec{x} = \vec{0}$   
 となる.

(正則→(ii))も同様にして示される. すなわち,  $A \vec{x} = \vec{b}$  かつ A<sup>-1</sup> の存在  $\rightarrow A^{-1} A \vec{x} = A^{-1} \vec{b} \rightarrow \vec{x} = A^{-1} \vec{b}$

**(i)→(ii)の証明 :**

$A \vec{x}_1 = \vec{b}, A \vec{x}_2 = \vec{b}$  が成り立つとすれば, 辺々引いて  
 $A(\vec{x}_1 - \vec{x}_2) = \vec{0}$   
 ここで (i) が成り立てば,  $\vec{x}_1 - \vec{x}_2 = \vec{0}$  となるから,  $\vec{x}_1 = \vec{x}_2$  が言える. すなわち (ii) が成立する.

**(ii)→(i)の証明 :**

自明解  $\vec{x} = \vec{0}$  は  $A \vec{x} = \vec{0}$  の解だから,  $A \vec{x} = \vec{0}$  がただ1つの解をもつならば, 自明解のみが解となるのは明らかである.

**(ii)→正則の証明 :**

基本ベクトル  $\vec{e}_i (i = 1, 2, \dots, n)$  に対して,  $A \vec{x} = \vec{e}_i$  の解を  $\vec{c}_i$  とすると,

$$\begin{aligned}
 A \vec{c}_1 &= \vec{e}_1 \\
 A \vec{c}_2 &= \vec{e}_2 \\
 &\dots \\
 A \vec{c}_n &= \vec{e}_n
 \end{aligned}$$

列ベクトルを束ねて書くと,  $A[\vec{c}_1 \ \vec{c}_2 \ \dots \ \vec{c}_n] = [\vec{e}_1 \ \vec{e}_2 \ \dots \ \vec{e}_n] = E_n$

ここで,  $C = [\vec{c}_1 \ \vec{c}_2 \ \dots \ \vec{c}_n]$  とおくと,  
 $A C = E_n \quad \dots (1)$

さらに, (ii)→(iii)だから A の行基本変形により E<sub>n</sub> が得られる.

様々な種類の基本行列 P, Q, R を変形の順に H<sub>1</sub>, H<sub>2</sub>, ..., H<sub>k</sub> で表わすと,

$$H_k \dots H_2 H_1 A = E_n$$

が成り立つから,  $D = H_k \dots H_2 H_1$  とおくと

$$D A = E_n \quad \dots (2)$$

(1)(2) より,  $D = D E_n = D(A C) = (D A) C = E_n C = C$

よって,  $A C = C A = E_n$  となるから, A は正則で,  $C = D = A^{-1}$  となる.

$n$ 次正則行列  $A, B$  について、次が成り立つ。

- (1)  $A$  の逆行列はただ1つである。
- (2) 逆行列  $A^{-1}$  も正則であり,  $(A^{-1})^{-1} = A$
- (3) 転置行列  ${}^t A$  も正則であり,  $({}^t A)^{-1} = {}^t(A^{-1})$
- (4)  $(AB)^{-1} = B^{-1} A^{-1}$

証明

(1) 2つ存在すると仮定して等しいことを示す。

(2) 逆行列の定義に当てはめる: 「 $AB = BA = E_n$  を満たす行列  $B$  を  $A$  の逆行列といい  $A^{-1}$  で表す。」から,

$A^{-1}A = AA^{-1} = E_n$  により  $A^{-1}$  の逆行列  $(A^{-1})^{-1}$  が存在し,  $(A^{-1})^{-1} = A$

(3) 2.2節において, 転置行列について次の性質を示した:

$$\begin{aligned} {}^t({}^t A) &= A, \quad {}^t(AB) = {}^t B {}^t A \\ {}^t A {}^t(A^{-1}) &= {}^t(A^{-1}A) = {}^t E_n = E_n \\ {}^t(A^{-1}) {}^t A &= {}^t(AA^{-1}) = {}^t E_n = E_n \end{aligned}$$

となるから,  $({}^t A)^{-1} = {}^t(A^{-1})$

(4)

$$\begin{aligned} (AB)(B^{-1}A^{-1}) &= A(BB^{-1})A^{-1} = A(E_n)A^{-1} \\ &= AA^{-1} = E_n \\ (B^{-1}A^{-1})(AB) &= B^{-1}(A^{-1}A)B = B^{-1}(E_n)B \\ &= B^{-1}B = E_n \end{aligned}$$

だから,  $(AB)^{-1} = B^{-1}A^{-1}$

#### ○ 逆行列の求め方

定理4の(ii)→正則の証明において,  $A$  に行う行基本変形を順に  $H_1, H_2, \dots, H_k$  とするとき,

$$H_k \cdots H_2 H_1 A = E_n$$

だから,

$$H_k \cdots H_2 H_1 = A^{-1}$$

ここで,  $A$  と並べて  $E_n$  にも行基本変形を行うことにすると

$$\begin{array}{ccc} H_k \cdots H_2 H_1 [A & E_n] & \\ \downarrow & \downarrow & \\ [E_n & H_k \cdots H_2 H_1] & \end{array}$$

となつて,  $A$  を  $E_n$  まで変形したとき,  $E_n$  は  $H_k \cdots H_2 H_1$  すなわち  $A^{-1}$  に変形されている。

#### 例1

$A = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 5 \end{pmatrix}$  の逆行列を求めよ。

$$\begin{aligned} A &= \left( \begin{array}{cc|cc} 1 & 3 & 1 & 0 \\ 2 & 5 & 0 & 1 \end{array} \right) \xrightarrow{2\text{行}+1\text{行}\times(-2)} \left( \begin{array}{cc|cc} 1 & 3 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & -2 & 1 \end{array} \right) \\ &\xrightarrow{2\text{行}\times(-1)} \left( \begin{array}{cc|cc} 1 & 3 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & -1 \end{array} \right) \\ &\xrightarrow{1\text{行}+2\text{行}\times(-3)} \left( \begin{array}{cc|cc} 1 & 0 & -5 & 3 \\ 0 & 1 & 2 & -1 \end{array} \right) \end{aligned}$$

ゆえに,  $A^{-1} = \begin{pmatrix} -5 & 3 \\ 2 & -1 \end{pmatrix}$

#### 例2

$(0 \ 1 \ 2)$

$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 1 & 1 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix}$  の逆行列を求めよ。

1行と2行の入れ替え

$$A = \left( \begin{array}{ccc|ccc} 0 & 1 & 2 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right) \Rightarrow \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 1 & 0 & 0 \\ 2 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right)$$

3行+1行 $\times(-2)$

$$\Rightarrow \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 1 & 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & -1 & 0 & -2 & 1 \end{array} \right)$$

1行+2行 $\times(-1)$ , 3行+2行

$$\Rightarrow \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & -1 & -1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & -2 & 1 \end{array} \right)$$

1行+3行, 2行+3行 $\times(-2)$

$$\Rightarrow \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & 0 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & -1 & 4 & -2 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & -2 & 1 \end{array} \right)$$

ゆえに  $A^{-1} = \begin{pmatrix} 0 & -1 & 1 \\ -1 & 4 & -2 \\ 1 & -2 & 1 \end{pmatrix}$

■確認テスト■ 次の空欄を埋めよ。

(1) 次の行列が正則行列かどうか判定せよ。

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & 1 \\ 2 & 1 & 0 \end{pmatrix} \dots \text{ [計算:見る|隠す]}$$

原式 $\rightarrow$ 1行と2行の入れ替え

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 3行+1行 $\times(-2)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & -2 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 3行+2行 $\times(-1)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & -4 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 3行 $\div(-4)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 1行+3行 $\times(-1)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 2行+3行 $\times(-2)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$\dots$ 行列が  次正方行列で, その階数が  だから,  
(  正則である  正則でない )

採点する

やり直す

(2) 次の行列が正則行列かどうか判定せよ。

$$\begin{pmatrix} 3 & 1 & 2 \\ 1 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix} \dots \text{ [計算:見る|隠す]}$$

原式 $\rightarrow$ 1行と2行の入れ替え

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 3 & 1 & 2 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 2行+1行 $\times(-3)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & -2 & 2 \\ 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 2行 $\div(-2)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}$$

$\rightarrow$ 1行+2行 $\times(-1)$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

$\dots$ 行列が  次正方行列で, その階数が  だから,  
(  正則である  正則でない )

採点する

やり直す

(3) 次の行列の逆行列を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ -2 & 1 & 2 \\ 2 & 3 & 1 \end{pmatrix} \cdots \text{ [計算:見る|隠す]}$$

$$\begin{array}{l} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & | & 1 & 0 & 0 \\ -2 & 1 & 2 & | & 0 & 1 & 0 \\ 2 & 3 & 1 & | & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{array}{l} \rightarrow 1\text{行}+2\text{行}\times(-1), \\ 3\text{行}+2\text{行}\times(-3) \end{array} \\ \rightarrow 2\text{行}+1\text{行}\times 2, \\ 3\text{行}+1\text{行}\times(-2) \\ \Rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & | & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 2 & | & 2 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & | & -2 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{array}{l} \rightarrow 3\text{行}\times(-1) \\ \Rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & | & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & | & -2 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & -1 & | & 8 & 1 & -3 \end{pmatrix} \\ \rightarrow 2\text{行と}3\text{行の入れ替え} \\ \Rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & | & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & | & -2 & 0 & 1 \\ 0 & 3 & 2 & | & 2 & 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{array}{l} \rightarrow 1\text{行}+3\text{行}, 2\text{行}+3\text{行}\times(-1) \\ \Rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & | & -5 & -1 & 2 \\ 0 & 1 & 0 & | & 6 & 1 & -2 \\ 0 & 0 & 1 & | & -8 & -1 & 3 \end{pmatrix} \end{array} \end{array}$$

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} \square & \square & \square \\ \square & \square & \square \\ \square & \square & \square \end{pmatrix}$$

採点する

やり直す

(4) 次の行列の逆行列を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 2 & 1 & 0 \\ 3 & 0 & 1 \end{pmatrix} \cdots \text{ [計算:見る|隠す]}$$

$$\begin{array}{l} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & | & 1 & 0 & 0 \\ 2 & 1 & 0 & | & 0 & 1 & 0 \\ 3 & 0 & 1 & | & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \\ \rightarrow 2\text{行}+1\text{行}\times(-2), 3\text{行}+1\text{行}\times(-3) \\ \Rightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & | & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & | & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & | & -3 & 0 & 1 \end{pmatrix} \\ A^{-1} = \begin{pmatrix} \square & \square & \square \\ \square & \square & \square \\ \square & \square & \square \end{pmatrix} \end{array}$$

採点する

やり直す